



JR九州労組

2019年

9月18日

No.238

九州旅客鉄道労働組合
 組 織 部
 発行責任者 中原博徳
 編集責任者 宮路 享

組織情報

車掌部会 第19回定期委員会

車掌部会は9月18日、JR九州労組会議室で「第19回定期委員会」を開催し、安全の確立や労働条件の維持・向上、日常の世話役活動を通じた組合員の声が届く運動の構築を柱とした2019年度の活動方針を決定し、車掌部会の更なる発展にむけ、積極果敢に運動を展開していくことを確認した。

委員会には部会役員、委員、傍聴者含め、60名が出席。議長に河野裕忠氏（門司車掌区）を選出し議事が進められた。車掌部会を代表してあいさつに立った藤河直樹部会長（博多車掌区）は冒頭、8月に九州北部地方を襲った大雨により亡くなられた方へのご冥福と、被災された方々へお見舞いを申し上げるとともに、①ワンマン運転拡大に対する対応、②早朝出勤、再度乗務の撲滅にむけた取り組み、③女性乗務員が働きやすい職場環境の構築の3点について問題提起を行い「私たち車掌を取り巻く環境は年々



厳しさを増してきているが、組合員一人ひとりが自らの仕事と将来に確信を持ち、生き生きとした働きがいのある職場環境をつくっていこう」と、参加者に更なる奮起を促した。また、来賓には、中央本部の宮路組織部長と大久保業務部長が出席し、中央本部を代表して宮路組織部長が、現在会社と協議中の2019年度労働協約改訂交渉で引き出した考え方をはじめ、最近の情勢等を中心にあいさつを行った。

議事では常任委員会より、2018年度の活動経過報告、2018年度決算報告を行ったのち、2019年度の活動方針を提起、9名の委員より①女性乗務員が働きやすい職場環境の構築、②各種効率化施策への対応、③九州新幹線ホームの安全対策や車内秩序の維持、④業職種別部会の在り方、⑤九州新幹線長崎ルート開業にむけた乗務員養成、⑥65歳以降の働き方、⑦客室乗務員が抱える職場課題など、多岐にわたる発言が出され、部会役員及び中央本部からの答弁後、すべての議案を満場一致で決定した。

役員改選では、藤河部会長をはじめとする新役員体制を確立。日常の世話役活動を通じて、組合員の顔が見え、声が届く運動を展開するとともに、部会としての専門的な知識を活かし、各種施策に対し必要な提言を行っていくことを確認した。新役員体制については以下のとおり。

役 職	氏 名	職 場	役 職	氏 名	職 場
部会長	藤河 直樹	博多車掌区	常任委員	河村 雅博	博多新幹線乗務所
副部会長	牧野 真丈	博多車掌区	"	荒木 裕輝	熊本乗務センター
"	塩屋 順二	博多車掌区	"	川畑 浩久	鹿児島乗務センター
"	河野 裕忠	門司車掌区	"	加藤 清也	宮崎乗務センター
事務長	浜田 彰浩	博多車掌区	"	酒瀬川涼太	門司車掌区
常任委員	中村隆之介	大分車掌センター	"	江崎 健人	唐津乗務センター
"	田中 浩彰	博多車掌区	"	阿久根啓二	長崎乗務センター